

標準委員会 リスク専門部会 津波PRA分科会
第16回津波PRA分科会議事録

1. 日 時 2012年11月5日(月) 13:30 ~ 17:00

2. 場 所 電中研本部 第4会議室

3. 出席者

(出席委員)山口主査(阪大), 桐本幹事(電中研), 秋山委員(CTC),
安中委員(東電設計), 喜多委員(TEPSYS), 倉本委員(NEL), 長谷川(黒岩委員代理)(MHI), 鈴木委員(原技協), 竹山委員(中電), 中井委員(JAEA), 成宮委員(関電), 平野委員(東京都市大), 西尾(藤本委員代理)(JNES),
松山委員(電中研), 美原委員(鹿島建設), 守屋委員(日立GE)(16名)
(欠席委員)蛭沢副主査(JNES), 佐竹委員(東大), 杉野委員(JNES), 高田委員(東大)(4名)
(オブザーバー)宮野(法政大), 山下(JNES)(2名)
(常時参加者)根岸(GIS), 杉本(東電), 佐竹(原技協), 福江(廣川代理)(TEPSYS)(5名)
(傍聴者)関沢(中電), 小山(電発), 小原(関電), 前原(関電), 松本(GIS)(5名)
(事務局)新井(1名)

(敬称略)

4. 配付資料

- RK2SC 16-1-1 第15回津波PRA分科会議事録(案)
- RK2SC 16-1-2 人事について
- RK2SC 16-2-1 津波PRA評価適用例集 標準委員会提出版
- RK2SC 16-2-2 評価適用例集の作成について
- RK2SC 16-2-3 津波PRA実施基準の適用事例集へのコメント(標準委員会 山下委員)
- RK2SC 16-2-4 事例H 津波PRA事故シーケンスの解析事例(PWR)
- RK2SC 16-2-5 原子力学会標準を用いた津波PRAの事故シーケンス評価例
- RK2SC 16-3-1 地震-津波重畳リスク標準の改訂項目検討について
- RK2SC 16-4 津波PRA標準英訳版(案) 標準委員会提出版
- RK2SC 16-5 分科会主要スケジュールについて r24版

参考資料:

- ・ 参考1 第15回津波PRA分科会議事メモ(案)
- ・ 参考2 津波PRA標準目次(抜粋)
- ・ 参考3 RK2SC11-4-3 地震工学会シンポジウム リスク課題 地震PSAから地震・津波PSAへ
- ・ 参考4 RK2SC12-4-1 地震-津波の重畳シナリオを示すイメージ図の案
- ・ 参考5 PK2SC16 標準委員会, リスク専門部会コメントメモ

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 20 名中 16 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数(14 名以上)を満足している旨が報告された。

(1) 議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 16-1-1 に基づいて桐本幹事から説明があり、承認された。

(2) 人事について

資料 RK2SC 16-1-2 により、人事について審議し、以下の承認 / 報告がなされた。

- ・ 宮本氏の常時参加者の退任
- ・ 菊池氏の常時参加者の承認
- ・ 木下委員の所属変更に伴い、当面委員数を 1 名減として活動すると報告

(3) 評価適用事例集について

参考 5 により、桐本幹事から、津波 PRA 英訳版と適用評価事例集に対する標準委員会、リスク専門部会のコメントについての説明があった。今後の主な対応は以下の通り。

- ・ 事例 B.3；評価適用事例集の本文を含め、最新情報と齟齬が出ないように調整をする。
- ・ 事例 F,G；原子力学会事務局から土木学会(事例 F)、電力土木技術協会(事例 G)に連絡し、評価適用事例集への掲載に関する調整した上で、評価適用事例集の発行方法を検討する。

資料 RK2SC 16 4 により、桐本幹事から、津波 PRA 標準英訳版の修正した部分についての説明があった。今後の主な対応は以下の通り。

- ・ 各担当者が、担当箇所の英語版本文を読み直し、should にすべきか shall にすべきかを検討する。
- ・ 本資料では、要求事項の部分を should に修正しており、will を間違って修正した可能性や修正されていない可能性があるため、その観点からも各担当者が確認を行う。

その他、以下の点について適宜修正を行う。

- ✓ 署名部分の形式を名前、チェアパーソン、スタンダードコミッティの順に修正する(例：V ページ)。
- ✓ 欄外の表記で「解説」と書いてある。新井事務局の方に、他の標準と合わせて英訳して頂くよう依頼があった。
- ✓ 数式の番号が入っていないページがあるため、それぞれの著者の方が数式番号や図

表番号等を確認して修正を行う。

資料 RK2SC 16 - 2 - 2 により，桐本幹事から評価適用事例集の例について，説明があった。これから外的事象や複合事象の評価で，今回と似たような状況が出てくることが予想され，本メモは参考として重要になると考えられるため，全体的にコメントの出典を追記して行くこととなった。

資料 RK2SC 16 - 2 - 3 により，リスク専門部会の山下副部長(オブザーバー)から適用事例集に対するご意見があった。今回の議論となっている JENS の事例 H については，次に紹介して頂く資料 RK2SC 16 - 2 - 4,5 の PWR の事例，今までの議論，及び委員の方々からのご意見も踏まえ，以下のような対応をすることとなった。

- ・ JNES の事例 H は，評価適用事例集に参考として載せることとし，評価の紹介の仕方は文章 1 行とするか，節とするかは次回までに西尾氏に検討して頂くこととなった。

資料 RK2SC 16 - 2 - 4,5 により，前原氏，小原氏(関電)から事例 H 津波 PRA 事故シーケンスの解析事例(PWR)について説明があった。説明後，山口主査より，各委員に対して関電殿の事例 H を評価事例として事例集に掲載してもよいかとの提案があった。この提案に対して，若干の修正要望等が出たが，分科会としては修正に対応することで問題ないとの結論となった。

(4)地震 - 津波重畳リスクについて

資料 RK2SC 16 3 1 により，桐本幹事から，地震 - 津波重畳リスクの検討事項について説明があった。本メモに記載された課題については，分科会にて，本日又は次回に議論し，今後，やらなくてはいけないことの整理，スピード感，優先度を決定する。

最終的に，どのようなスケジュールでやるかは，リスク専門部会の検討タスクに津波地震の検討項目として挙げ，議論して頂き，その結果を踏まえ，分科会で早急に対応するかを決定する。

本メモの検討項目に対して，地震，津波ハザード，フラジリティのそれぞれの立場の方々からご意見を頂き，論点を明確にした上で，最終的にはこの資料を今後の道標としてまとめる。

その他，以下の項目を本メモに追記することとなった。

- ✓ 漂流物のカテゴリー化(ぶつかるモード，漂流モード，種類等)
- ✓ プラントウォークダウンの着眼点まとめや手順書化
- ✓ 可燃物の漂流物

(5) 今後の予定

資料 RK2SC 16-5 により、桐本幹事からスケジュール等の説明があった。

次回、第 17 回分科会 11 月 26 日(月)10:00 からを予定。

以 上